

みどりの ニュースレター

5
2012
No.228

市民の発信で持続可能な社会をつくる

特集：

環境市民設立 20 周年

「持続可能で豊かな社会を、地域から、パートナーシップで実現する」

環境市民のエコシティー戦略 20 年の成果と展望

(速報)「自治体環境ベストプラクティス」公開！

特定非営利活動法人

環境市民

¥200

収益の一部は環境市民の活動資金として使わせていただきます。なお、会員には毎月無料配布しています。

このニュースレターはボランティアの手で折られ発送しています。



21世紀 地球を、地域を、生活を、持続可能な豊かさに
<http://www.kankyoshimin.org/>



Twitterやってます！
アカウントは kankyoshimin です。

みどりの ニュースレター

No.228 2012年5月号

編集員が行く！ 02

「エコ」で「優しい」毎日

特集：環境市民設立20周年
「持続可能で豊かな社会を、地域から、
パートナーシップで実現する」

環境市民のエコシティー戦略 20年の成果と展望
(速報)「自治体環境ベストプラクティス」公開！

03-09

行事案内 10

環境学習プログラム
エコスクール ③ 11

祝！ グリーンフラッグ取得 西在田小学校！

地球のなかま 12

第49回 タコははるばるやってくる

みんなでつくる！ 交野が変わる！
環境基本計画づくり進行中 第6回 13

交野市環境基本計画が完成しました

読者交流コーナー みどりのかわらばん 14

1/ 環境市民 15

思い立ったら即行動。仲間がいてこそできること。
支えてくれるスタッフがいるからできるんです。
／西村 仁志さん

次号
予告

みどりの
ニュースレター

No.229
2012年6月号

現在
編集中！

特集：いよいよ施行！
再生可能エネルギー措置法（仮）

欧州において再生可能エネルギーの普及に確かな実績を残してきた再生可能エネルギー固定価格買取制度（フィードインタリフ）。ようやく日本においても今年の7月から導入されることとなります。しかしその内容に関しては、まだ十分に知らされているとは言えません。そこで次号では、この制度の内容や課題について詳しくお伝えしていきます。

編集員が行く！

編集部のアナテナにかかった選りすぐりの
エコ情報を伝えます！

No.35 「エコ」で「優しい」毎日

環境市民が昨年度から取り組んでいるグリーンウォッシュ^{*}に関する調査のお手伝いをして以来、本来の“文句言い”気質もあいまってか日常にあふれるアヤシイ広告が目についてしょうがなくなっていました。

バスに乗ろうとすれば横っ腹にデカデカと「環境に優しいバスを使いましょう！」の

文字。確かにマイカーよりはマシだろうけど、それを優しいと表現するのは違うだろう……。ブツブツ言いながら乗ります。

道を歩いていると震災直後の自粛ムードもどこへやら、たくさんの自動販売機が電気をピカピカ光らせて稼働しています。ふと目をやると、「環境を考えた地球に優しいエコベンダーです」の文字（右上写真参照）。妙にかわいらしいキャラクターまで描かれています。パッと見にはとっても良いことをしているみたいです。えーっとですね、いくら他の自動販売機より消費電力が少なくなっているとはいえ、そもそもマイボトルに飲み物を入れて持ち歩けば、通常1台で4人家族暮らしの家一軒分と同じ電力を使うと言われる自動販売機自体が必要ないし、その優しい機械はペットボトル入りの商品をいっぱい売っているようですが、そのへんどうお考えなんでしょうかねえ……。ブツブツ。

春先は季節の変わり目で何かと体調を崩しがち。花粉症ではないみたいだけど、出先で急に鼻がムズムズしてきました。仕方なくコンビニでティッシュを買おうとパッケージに「We love green! 肌と地球に優しいティッシュです」の文字が躍っています。うーん。そりゃ100%バージンパルプを使った製品よりは良いよ。でも、だからってほんのちょっと牛乳パック古紙を配合しただけで、地球にまで優しいことになっちゃうの？ 肌あたりでさえあんまり優しくないですけど……。鼻の下ガビガビにしながらブツブツ。

自転車を漕ぎ漕ぎ家路を急いでいるとエコタイヤを履いたエコカーが脇を猛スピードで駆け抜けて……。 「エコ」で「優しい」毎日もうんざり。

(文／ニュースレター編集部 坂部 安希)

※不確かな情報や部分的な情報を伝えて、商品全体や企業活動全般を環境に配慮しているかのように見せかけること。



環境に優しいエコな自動販売機なんだそうです。

特集：環境市民設立20周年 「持続可能で豊かな社会を、地域から、パートナーシップで実現する」

環境市民のエコシティー戦略 20年の成果と展望 (速報)「自治体環境ベストプラクティス」公開！

ブラジルのリオデジャネイロで地球サミットが開かれた1992年、環境市民も産声を上げました。そして今年の7月、設立20年を迎えます。本号では、本会の重要なミッションのひとつである「エコシティーを創る」分野について、この20年を振り返り、その成果と課題の総括を踏まえた今後の展望についてご紹介します。

環境市民のエコシティー戦略 地域から日本を変える (文/環境市民代表理事 杵本 育生)



環境市民は、持続可能な社会をめざして活動を展開しています。その戦略として「地域から日本を変える」ことを進めてきました。その理由は二つあります。まず1992年のリオ会議で採択された「アジェンダ21」で、持続可能な社会を創るためには、地方自治体の参画が決定的な要素になると示されていることです。もうひとつは、これまでの世界の大きな社会の変革や進歩は、最初は地域からの具体的な動きから始まっているという事実からです。

このような基盤に立ち、環境市民では「エコシティーを創る」をアジェンダのひとつとして掲げて活動を展開してきました。具体的な活動としては、環境基本計画・ローカルアジェンダの策定と推進サポート、自治体職員や住民向けのリーダー養成講座など、直接支援の分野があります(4ページ参照)。そしてもうひとつが、環境首都コンテストを中心とする、市区町村長との戦略会議(5ページ参照)、地域ブロックごとの先進事例交流会などの「環境首都コンテスト全国ネットワーク」による活動です。

後者の活動は、持続可能な社会をめざそうとする自治体に切磋琢磨とあらたなネットワークをもたらすとともに、NGOとの政策議論や研究の進展、信頼を醸成し、地域から日本を変えていくパートナーとなる自治体を見出していくことが長期的な目的でした。幸いにも環境首都コンテストや戦略会議に多くの自治体から積極的な参加があり、その中で共同の政策提言がなされ、自治体間および自治体とNGO間に、他の日本の活動の中ではあまり例がない交流と信頼の深まりが

見られるようになりました。これらの成果は、現在日本社会にとってとても貴重であると考えています。

現在の日本は、経済的な行き詰まり、社会格差の拡大、民主社会の主人公としての人間教育の失敗、年金等の社会保障制度の崩壊など、大きな社会転換が必要な状況になっています。その中で生命と生命の基盤である地球環境を大切にするための取り組みは、表層的なことは進んでも根源的な取り組みはほとんどなされていません。さらに3.11によって、被災地の復興と将来予測される大震災への予防的対応、そして原発や化石燃料に頼らないエネルギー社会の構築など大きな課題が誰にもわかる形で示されました。

しかし、日本政府は中央官僚に支配され、無責任な原発再稼働をすすめるなど、なんら根源的な戦略も政策も示し得ていません。また、このような閉塞感を打ち破りたいという国民感情を利用したファシズム的な政治の動きも顕著化してきています。

環境市民が志を共にするNGOや自治体とすすめるようとする、地域から日本を変える戦略は、多くの人々の参画を求めながら具体的な動きを地域から起こしていくものです(具体的な活動は5～6ページ参照)。私達は、文明の岐路にたっています。独裁的な政治家や無責任な官僚に頼らず、生命を育んできた地球環境、生命、人権、平和・非暴力、多様性……を本当に大切にできる社会を根本から創りなおしていく、そのために地域から日本を変えていくことが必要だと考えます。

環境市民の エコシティーづくり戦略 20年の歩み

環境市民のエコシティーづくり戦略の特徴は、環境・経済・社会的公正を満たす社会経済を実現するための仕組みづくりと、エコシティーづくりを担う「人」の発掘、育成に力を入れてきたことです。この20年で何を成し遂げたか、その歩みを総括します。

ひとづくり

環境市民では、環境首都コンテストなどにとともに取り組んできたNGOとともに、「地域から日本を変える7つの提案」を出しています（詳しくは『環境首都コンテスト』学芸出版社）。その7つの提案の第1に掲げたのが「人を活かす、創る」です。

持続可能な社会を地域から創っていくために必須であり、また基盤となるのが、「人」です。日本においても、そして持続可能な社会づくりが日本よりも進んでいるスウェーデンやドイツにおいても、先進的な取り組みをしている地域社会には、必ず何人かのキーパーソンが存在しています。また地域を何とか良くしたいと思いつつ活動している多くの住民がいます。このような人々は、中には素養がありそれを開花させて活動している人もいますが、その多くは社会的経験や学習によって、その能力を自ら培ってきた人たちです。

環境市民では、地域から日本を変えていく主人公になるようなひとづくりの活動に取り組んできました。「地球環境基金」、各地の自治体、京エコロジーセンターなどとの協働、または他のNGOとの共同、そして単独主催と形態はいろいろですが、「環境NGO活動入門講座」「エコシティー講座」「環境教育リーダー養成講座」「協働コーディネーター養成講座」などの連続講座の開催。様々な学習教材や学習プログラムの開発・作成と普及、エコスクールづくりのサポート、そして実際の様々な活動をボランティアとともに創っていくことなどです。



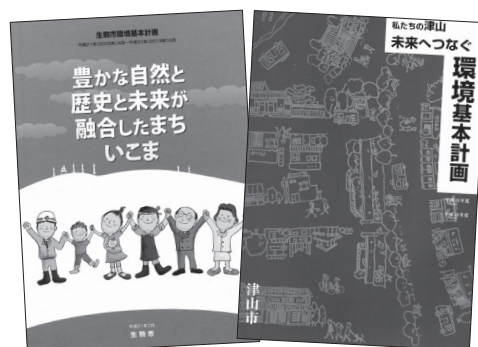
環境教育リーダー養成講座(2011年7月)

環境基本計画、ローカルアジェンダ21策定コーディネート

「地域から日本を変える7つの提案」には上述の「人を活かす、創る」以外に「地域の将来像を描く」「戦略的事業を組み立てる」「パートナーシップを深める」「率先例をつくりだす」があります。それを合わせて具体化したのが環境基本計画、ローカルアジェンダ21の策定と推進のサポートです。環境基本計画、ローカルアジェンダ21は、自治体の環境政策や持続可能な社会づくり政策の根幹となるべきものです。そこには、明確で分かりやすい地域の将来像、戦略、そして具体的なプロジェクトが記載されている必要があります。この将来像を明確にし、その達成に向けて政策を戦略的に構築し実施に移していく方法をバックキャストと呼んでいます。

しかし、従来、日本の自治体の計画はそうになっていませんでした。どこの地域でも使えるような将来像、総花的で項目の羅列に過ぎない施策提案、戦略的な

い対策だらけ。もちろん実効性も乏しいものでした。環境市民では、住民と自治体が主になってバックキャストで戦略的な政策・プロジェクトを実施に移すことができる計画を提案しています。その計画策定と、実行に移していくことができる手法を、ドイツなどで行われている未来会議を参考に独自のものへと発展させました。この手法で計画策定のコーディネートをした自治体は、津山市、福知山市、碧南市、吹田市、岡崎市、野洲市、生駒市、交野市の8自治体になっています。実施段階において、これらの自治体でももちろん課題もありますが、市民参画の推進がなされています。



生駒市環境基本計画書

津山市環境基本計画書

日本の環境首都コンテスト

環境市民が発足してすぐの1992年、メンバーがドイツに視察にいき、そこで出会ったのが、ドイツのNGOが主催する「環境首都コンテスト」でした。「日本でもやりたい」と思ったものの、自らの力不足や自治体の環境施策がすすんでいない状況では難しい状況でした。しかしあきらめず、1996年には環境市民エコシティー研究会を立ち上げ、国内外の調査をつけました。2000年には国内の有志NGOと環境首都コンテスト全国ネットワーク(以下、首都コンネット)を結成、2001年度には記念すべき第1回を実施できました。その後、2010年度まで連続10回実施を成し遂げました。全10回の開催で、実数にして229自治体に参加いただき、選出した「先進事例」は668事例になりました*。

コンテストの評価項目を記載した「質問票」は、当初60ページ足らずでしたが、第10回には220ページを超える膨大なものになりました。名実ともに、NGOが持続可能な地域社会づくりのために自治体にもとめる網羅的な政策提言集が完成したと言えます。質問の内容は条例や計画などの制度面を重視したものから、政策プロセスへの住民参画や、政策のパフォーマンス(成果)や社会的な効果を重視したものに重点を置くよう

変遷しました。その結果、取り組みの実質を評価できるようになりました。

最終回となる第10回にして、とうとう熊本県水俣市が「日本の環境首都」の条件をすべて満たしました。称号の獲得は持続可能な地域社会への第一歩ではありますが、

全国の自治体にすすむべき道筋を示すことができたという点で大きな第一歩でした。

もともとコンテストを通じて実現をめざしていたのは、環境行政の改善や社会的評価向上とともに、終局的にはNGOと自治体の関係深化とNGOの社会的影響力の強化でした。この10年で自治体の環境施策に関する専門性はとても高まり、複数の自治体と協働プロジェクトを実施できるまでに信頼関係も深まりました。

※2011年度、これら先進事例の中から、環境NGOとして自治体が持続可能な地域社会の実現に取り組むために最も有効性、効率性が高いと考える活動を「ベストプラクティス」として選び、インターネット上で公開の準備をすすめ、この4月に公開しました。詳しくは7~9ページをご参照ください。



第10回コンテストで「日本の環境首都」の称号を受け取る水俣市長(写真右)

戦略会議、全国フォーラム

当時のエコシティー研究会には自治体の評価を専門に調査する部会とともに、人づくりを考える部会もありました。人づくりをめざす活動として1999年にはじめたのが「環境自治体を創る市町村長と環境NGOの戦略会議」でした。環境自治体づくりには住民参画というボトムアップからの力とともに、市区町村長の強力なリーダーシップが不可欠です。NGOと市区町村長が膝をつき合わせて、本音で持続可能な地域社会について議論する機会として、以後毎年開催されました。当初は環境市民の単独主催でしたが、環境首都コンテストがはじまった2001年度からは首都コンネットの主権に切り替えました。しかし2006年度に必要性を再検討するために一旦休止。参加自治体の主体性を引き出す方法を模索しました。そして2007年度から「環境首都をめざす自治体全国フォーラム」として再出発します。手を挙げてくれた自治体との共催とし、運営も共同で行うように変えました。2008年度に長野県飯田市で開催した全国フォーラムからNGOと自治体の共同提言を発表するようになり、現在までに8つの

提言が発表されています*。2011年度からは、環境首都コンテストの終了に伴い、

名称を「環境首都創造自治体全国フォーラム」に変更し、愛知県新城市で開催しました。2012年11月には奈良県生駒市での開催が決まっています。

この会議の成果として、参加自治体の主体性は高まり、議論のテーマや共同提言の必要性などについて、自治体側から提案を受けるまでになりました。また、パートナーシップに不可欠な「信頼」を複数の市区町村長と深めることもできました。その結果、共同で提言したことをパートナーシップで実際に実現していこうという機運も高まり、次に紹介する地域公共人材の流動化の仕組みづくりやNGOと自治体の戦略的協働ネットワーク立ち上げの動きにつながりました。

※各提言の内容は下記URLで閲覧できます。

<http://eco-capital.net/modules/project/declaration/>



新城市での全国フォーラム(2011.10.19~20)

地域公共人材の戦略的流動化の仕組みづくり

2009年度に愛知県安城市で開かれた全国フォーラムで発表された共同提言「『人材の戦略的流動化』へ向けての行動の呼びかけ」に基づき、地域公共人材の流動化のための仕組みづくりが2010年度から2年間かけて行われました。環境問題の他にも、地域経済の疲弊や少子高齢化、人口減少に伴う財政規模の縮小など地域課題は山積しています。また環境問題の解決には時間的制約があります。これまでの組織やセクターの壁に閉じこもった人材育成のシステムにも限界が見えてきました。そこで、地域課題の解決に必要な専門性や経

験をもった人材を、NPO、自治体、大学・研究機関などが発掘、育成、融通しあう仕組みをつくることになったのです。この提言には全国の22自治体が賛意を示しました。仕組みの具体的検討のため、中部地域にある5市（安城市、飯田市、掛川市、新城市、多治見市）の環境および人事担当者）と首都コンネット（7回の会議を開催し、議論を深めました。実際の仕組みの運用はこれからですが、自治体の市長、人事、環境を巻き込んだ大きなチャレンジであり、今後につながるひとつの大きなステップになったと考えています。

地域公共人材の流動化マッチング・データベース	
〈受け入れたい〉	〈学びたい〉
登録情報検索	登録情報検索
情報登録依頼	情報登録依頼
登録情報一覧	登録情報一覧

検討会での議論を受けてウェブ上に作成した「地域公共人材の流動化マッチング・データベース」。「人材を受け入れたい」と「人材に学ばせたい」という二つのニーズを登録できる。それぞれ職務内容、職級、技能などのキーワードから検索でき、他自治体に有能な人材を出せる、または他自治体から学びたい人材を受け入れられるかどうかを検討できるようになっている（現在準備中のため一般には非公開）。

「環境首都・持続可能で豊かな社会をめざす戦略的協働ネットワーク（仮称）」の立ち上げ

環境首都コンテストや全国フォーラム、そして人材流動化の仕組みづくりなど、環境市民は率先して他のNGOとネットワークをつくり、「地域から日本を変える」というミッションに一貫して取り組んできました。実践を通して自らのエンパワメントに努めるとともに、複数の市区町村長との深い信頼関係を活かして政策立案への影響力を発揮し、自治体との協働プロジェクトにも責任を果たして来ました。

次に向かうべきステップは、複数の、それもトップランナーをめざす自治体と複数のNGOなどがパートナー

シップを組んで共同で社会課題の解決に汗を流し、中央政府にも影響を与えられるような組織体制（ネットワーク）をつくることだと考えました。2011年度に発表された共同提言「環境首都・持続可能で豊かな社会をめざす戦略的協働ネットワーク（仮称）結成の呼びかけ」に基づき、本年2月に準備会議が開催されるなど、ネットワークの枠組みや具体的なプロジェクト案の考案はすでにはじまっています。有志自治体との準備会議を開催し、今秋には正式に発足させたいと考えています。

ポスト環境首都コンテストの実施

全10回をもって終了した環境首都コンテスト。現在のところ、国内にはこれほど網羅的で深いところまで自治体の環境行政を、市民の視点をもった独立したNGOが評価する取り組みはありません。自治体からは、これからも何らかの評価の仕組みを継続してほしい、

との要望が多くだされています。近い将来、持続可能な地域社会づくりに向けて本当に効果的で継続性のある評価システムを考案、実際に運用したいと考えています。

速報 「環境自治体 ベストプラクティス集」 公開！

この4月、「環境自治体ベストプラクティス集」がウェブサイト上で公開されました。実施主体は環境市民が事務局を担う環境首都創造NGO全国ネットワーク（以下、創造ネット）と公益財団法人ハイライフ研究所。同研究所とは、これまでパートナーシップで書籍『環境首都コンテスト-地域から日本を変える7つの提案』（2009年、学芸出版社）や映像版先進事例集『挑戦-地域から日本を変える-第1～3集』（DVD形式、2005～2007年度）を発行するなど、すぐれた先進事例の情報発信をすすめてきました。

作成の趣旨

環境首都コンテストで選ばれた668の先進事例はすべて、行政や住民の創意工夫が満ちており、日本社会を変えていく多くのヒントを内包しています。それらの経験が個別事例で終わらず、同様の課題を抱えた多くの地域で活用されることで、社会変革のための力につなげたいと考えました。それらのなかからベストプラクティスを選出し、広く日本社会に情報発信することで被災地での復興や、日本各地での持続可能なまちづくりに役立てたいと考えました。

作成の過程

選定者は経験豊かな創造ネットのメンバー。まずは668事例を対象に投票を実施し、得票数や内容を勘案して、2日間の会議でさらに厳格に絞り込みました。その結果、170事例^{*}がベストプラクティスとして選定され、メンバーが分担して調査、原稿執筆し、自治体のチェックを受けて公開に至りました。

^{*}4月16日現在、170事例中127事例を公開しています。本ニュースレター発行時点の5月初めにはすべて事例を公開している予定です。

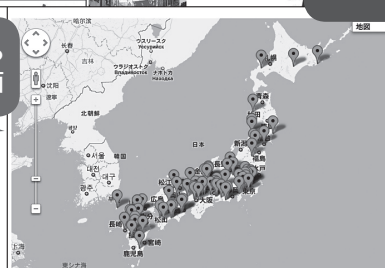


さっそくアクセスしてみよう！ <http://bp.eco-capital.net/>

画像から 検索画面



地図から 検索画面



持続可能な地域
社会づくりに求
められる政策を
14分野に分類

様々な関心、
角度からの検索
システムを搭載

特長

多様な目的、関心、立場の方々に役立つよう、政策分野、地域、人口、キーワード（4月16日現在435件。Wikipediaの活用）のほか、地図、事例に関する画像から視覚的に検索することもできます。より深く知りたい方へは豊富な外部リンクや、事例についての問い合わせ先も掲載し、この事例を通じて世界が広がるように工夫されています。各事例紹介のページには、twitterやFacebookなどのソーシャルメディアへのリンクも設置されており、このサイトを通して、持続可能な地域社会のイメージや課題克服のための工夫、アイデアなどの交流につなげることもできます。利用はすべて無料です。

公開したベストプラクティスの一覧(4月16日現在)

自治体名	事例名	自治体名	事例名
帯広市(北海道)	みんなで創る「帯広の森」	多治見市(岐阜県)	120mの聖域(標高120m以上の場所で行なわれる大規模な行為への制限) 景観から風景へ!市民がつくり市民が動く「多治見市風景づくり計画」 壊れたり使われなくなったりした食器をリサイクル 美濃Re食器
二セコ町(北海道)	環境基本計画の進行管理、事業評価を住民主体でわかりやすく 住民自ら考え、行動するまちづくりのための文書管理と情報共有 町の事業予算に住民提案枠 まちづくりの憲法 まちづくり基本条例 未成年も町づくりに参画 小学生・中学生まちづくり委員会 自転車が搭載できる循環バス	三島市(静岡県)	街中がせせらぎ事業 みんなでつくろう小さなダム 森の小さなダムづくりで地下水涵養
池田町(福井県)	100人のパートナー会 池田町まちづくり自治制度 ちっちゃな幸せ実現事業 地元の商品がこってコテ(たくさん)に集まった市場「こってコテいけだ」 農村力を活かした「地域資源連結循環型農業」のまちづくり	磐田市(静岡県)	磐田市ほんもの協働事業提案制度
浜中町(北海道)	緑の回廊で農村地域全域ヒートアップ化へ 協働で全国初の丸太魚道を設置 ようこそ! 酪農王国「浜中町」へ	掛川市(静岡県)	地域の50強%が協定を結んだ「掛川市生涯学習まちづくり土地条例」
仙台市(宮城県)	いい音残創(のこそう)事業	岡崎市(愛知県)	役所全体で取り組む水筒持参運動 男子家事能力開発講座「男も家事ろう!」
気仙沼市(宮城県)	地域協働で行なわれている体系化されたESD	豊田市(愛知県)	全庁舎・施設から飲料用自動販売機を撤去した街
能代市(秋田県)	公共自転車のまちづくり 木造校舎をすべての小中学校に	安城市(愛知県)	「市民とともに育む環境首都」をめざした総合計画策定 中部環境先進5市サミットの継続的開催 環境首都をめざして環境専任副市長の就任から始まる環境保全活動 区画整理事業の仮移転住宅からはじまる「桜井エコタウン」 エコサイクルシティ計画安城市の自転車まちづくり
高畠町(山形県)	町民の半数が参加!高畠町の環境学習 グリーンコンシューマー から始まる3年間の環境学習プログラム 高畠町の笑エネキャンペーン夏と冬	日進市(愛知県)	市民と行政の本質的「共働」による体系的な環境施策推進 こどもも大人も学びながらともに育つ戦略的環境学習「につしんこどもプロジェクト」
庄内町(山形県)	風のまちの挑戦~エネルギーの地産地消をめざして~	野洲市(滋賀県)	魚が田んぼや排水路を行き来する「魚のゆりかご水田」 地域から取り組む「環境と経済の両立」-地域通貨「すまいる」と「野洲版」地産地消
遊佐町(山形県)	遊佐町少年町長・少年議会事業 遊佐町立西遊佐小学校の地域密着型総合学習「まつのっこ学習」 農業・環境の再興で食糧自給率向上をめざす 地域の農業を変えた生活クラブ生協とおつきあい	京丹後市(京都府)	「公共交通対策プロジェクトチーム」の設置と、運賃上限200円バスの市内全域快走!
会津若松市(福島県)	城下町の観光は公共交通とまちあるきで	南丹市(京都府)	かやぶきの里保存事業
東松山市(埼玉県)	環境まちづくりパートナーとの協働 環境まちづくり情報誌「風の根通信」 生態系も地域コミュニティも再生するホテルの里づくり事業	尼崎市(兵庫県)	業務の改革改善から職場風土・職員の意識改革までYAAぞ!運動からはじまる全庁的改革改善運動 人にも環境にもやさしいノンステップバスの導入と、高齢社会に対応した乗務員の介助士資格取得
志木市(埼玉県)	環境を大切にしたい地域の総合的な学習の場 志木小学校・いろは遊学館・いろは図書館	宝塚市(兵庫県)	空き家を活用して地域活性化推進の拠点づくりへ! ~宝塚市空き家住宅情報バンク~
八潮市(埼玉県)	八潮街並みづくり100年運動	北栄町(鳥取県)	地域再生の柱としての自然エネルギーへの取り組み
市川市(千葉県)	市民活動団体支援制度(1%支援制度)	津山市(岡山県)	「画に描いた餅」にしない! 市民参画で環境まちづくりのビジョン実現をめざす
板橋区(東京都)	わかりやすい「板橋区環境マネジメントシステム実施結果報告書」の作成 子どもの年代別成長実態に沿ってつくられたESD(持続発展教育)の視点を重視した環境教育 緑のカーテンを「まちぐるみでひろげよう!」	福山市(広島県)	学校TFPで小学生が家族に自動車利用抑制を提案
三鷹市(東京都)	満点の星空を取り戻す「三鷹市光害防止指導指針」	宇部市(山口県)	宇部方式~公害をバネに環境先進都市をめざし仕組み
日野市(東京都)	市民が市民のためにわかりやすくつくった財政白書 行政に里山管理を依頼できる日野市緑地信託制度	上勝町(徳島県)	過疎地における新しい公共の移動手段「有償ボランティア輸送制度」
横須賀市(神奈川県)	全国の自治体に先駆けて環境会計を導入	佐那河内村(徳島県)	独自予算をもつ地域コミュニティ~住民の連帯意識と相互扶助のまち内子町(愛媛県)
秦野市(神奈川県)	交通需要マネジメント(TDM)実施計画によるTDM教育の実施	町並みと環境保全で次世代を育成する国際交流 町民が講師の「まちづくり職員研修」 「エコロジータウン内子」住民と進めるまちづくり	
大和市(神奈川県)	協働事業等提案制度	高知市(高知県)	住民が地域で動き、繋がるコミュニティ活性的取り組み
勝山市(福井県)	わかまげんぎ発掘・創造・発展事業 えちぜん鉄道活性化へむけたユニークな取り組み	香南市(高知県)	タノシムチカラ「赤岡のまちづくり」
越前市(福井県)	アーススマートプロジェクト~スイーツ(お菓子)と学習机~	橋原町(高知県)	標高1,000mのエネルギー自立都市
都留市(山梨県)	市民公募債(つるのおんがえし債)による水車の設置	北九州市(福岡県)	他には例がない充実度! 子ども環境教育副読本とその教師用指導書
長野市(長野県)	すべての公民館で地域独自の「生涯学習型環境学習」 剪定枝・まきストープ活用事業	大木町(福岡県)	みどりゆたかで、おしやれな農村づくり基本計画
松本市(長野県)	50%を超す職員が実施するエコ通勤	佐賀市(佐賀県)	「市民活動団体と関連課をつなぐ協働推進窓口制度」 「ノーマイカーデー割引市営バスでエコライフ!!」
飯田市(長野県)	地域ぐるみで事業所のレベルアップと持続可能な社会をめざす 地域ぐるみ環境ISO研究会による継続的活動 地域のトップランナーとして 自治体では全国初のISO14001自己適合宣言とその継続 地域ぐるみで取り組む開発途上国の人材育成・地域づくり支援~フィリピン・レガスピ市における住民参加の上水道建設プロジェクトをはじめとして~ 議会主導の自治基本条例の制定 ムトス飯田市民ファンド 里山保全と環境教育を一体化 学友林整備事業 10年かけて理想を実現!「かざこし子どもの森公園」 自然エネルギーと地域の経済循環で新しい公共の実現をめざし年々進化・進化を続ける「おひさま0円システム」 ビジョンを形に充実した支援制度と協働が生み出す環境配慮型工業の成果 地域資源をつないだ多彩なグリーンツーリズム 感動体験南信州「人材のサイクル」づくり 環境省のまほろば事業で起業し、全国の市民による自然エネルギー普及活動をリードする「パートナーシップ型環境エネルギー事業」	長崎市(長崎県)	よみがえれ、石畳の川
小諸市(長野県)	市内全小中学校で進める、太陽光発電のグリーン電力証書化と活用	対馬市(長崎県)	通販・流通業者と提携し、旬の魚をネット販売
多治見市(岐阜県)	完全公開・第三者機関による処分場候補地の選定 市民の環境影響評価員が公共事業の環境配慮内容チェック 子どもの感性を育む地域住民参加の学校づくり	熊本市(熊本県)	市との協働により市民が多彩な活動を展開した環境パートナーシップ組織 市民とともに展開する節水市民運動 くまもと水ブランドの推進 上流自治体の農家と連携した地下水涵養・ウォーター・オフセットの取り組み
		水俣市(熊本県)	環境首都まちづくりの組織化と「第2次水俣市環境基本計画」の策定 水俣独自の「旅館・ホテル版環境ISO」と「畜産版環境ISO」 村丸ごと生活博物館 地区環境協定制度 環境マイスター認定制度 学校版/保育園・幼稚園版環境ISO制度 「海藻の森づくり構想」による環境・漁業の再生プロジェクト 「スイーツのまちづくり」~スイーツが人と人をつなぎ、地域をつないだ~
		氷川町(熊本県)	住民との交流拠点であるまちづくり情報銀行を核とした、住民絡ぐみによるまちづくり総合計画の策定 地域で企画を頼む住民提案の施策化 宮原を守り・磨き上げるまちづくり条例
		日田市(大分県)	市内全世帯、全事業所を対象としたバイオマス資源を活かした循環型社会の実現
		諸塚村(宮崎県)	自治体公民館運動による長年にわたる住民自治の「むらづくり」 全村森林公園・諸塚「百彩の森づくり」!全村あげてのエコツーリズムの推進 日本初の村ぐるみFSC認証!諸塚村
		志布志市(鹿児島県)	「志布志モデル」海を渡る



“選ばれた側にも勇気を与えた先進事例”

山形県高島町 生活環境課 環境推進係長 村上 奈美子 氏

「悩みが解決した!」のも、自分たちの活動に「自信がついた」のも、環境首都コンテストや交流会に参加したのがきっかけでした。

いろんな先進事例の紹介があるものの、土地柄も人口規模も違うと「うちの町ではムリ」と否定的に捉えがちですが、交流会で具体的な内容を聞いてみると、少し工夫すればやれるかもしれないと思えるものが数多くありました。

そのひとつが「ISO14001の自己適合宣言」。認証継続の予算がつかず、せっかく確立したEMSをやめざるを得ない状況の時、長野県飯田市の地域を巻き込んだ「自己適合宣言」を知り、解決の糸口を見つけた思いでした。

さっそく、飯田市から講師を招いて職員研修を行い、高島方式「自己適合宣言」に移行。悶々と悩んでいた日々がうそのように、スムーズに進めることができ、今も継続しています。

一方、先進事例に高島町の環境学習や笑エネキャンペーンが選ばれた時は、環境アドバイザーの皆さんと「え～、まさか」ととても驚いたものです。

自分たちができることを続け、当たり前だと思っていたことが全国で評価され、ずいぶん励みになりました。環境市民さんの熱心な事例の掘り起しは、心のもった活動だからこそ、悩んでいる多くの自治体職員を救ってくださったと思います。

今も多くの自治体の方と気軽に情報交換ができ、交流が続いています。本当にありがとうございました。



“日本社会のキャパシティ向上に期待します”

龍谷大学政策学部 准教授 的場 信敬 氏

このベストプラクティス (BP) 集は、事例の量と情報の質、対象とするテーマなど、そのすべてが豊富で、環境分野にとどまらないまさに持続可能な地域社会のためのBP集として高く評価ができるものです。地域で活動するNPOや実務家の方々に新たな創造力とエネルギーを与えてくれるだけでなく、BPとして紹介された事例地域の方々にも、地域への誇りと活動へのいっそうのオーナーシップを生み出してくれます。さらに、このBP集を編集した環境市民や関係組織の方々にも、さらなる専門性の向上と新たなネットワークをもたらしてくれたことと思います。

全体としては、日本の「持続可能性チャレンジ」の到達点を明らかにするとともに、これを検討することで、今後の課題（例えばテーマ横断的な取り組みや活動の持続性など）の明確化にも寄与することが期待できます。そして、これらのポジティブな効果の集積が、日本社会全体のキャパシティ（能力）の向上につながっていきます。これこそが、このBP集の最大の意義であり、特に3.11以降岐路に立つ日本の地域社会づくりに求められていることだと思います。このBP集が持続可能性をめざすすべての方々に有効に活用されることを願っています。

関係者への御礼の言葉.....



活動に参加、ご寄付くださった市民の方、ともにねばりよく活動を作り上げたネットワーク構成NGO、環境首都コンテストやフォーラムに参加いただいた自治体、パートナーシップのパートナーとしてともに汗を流した自治体、継続的に資金を提供いただいた地球環境基金、そして先進事例の情報発信のためパートナーとして協力くださった公益財団法人ハイライフ研究所、この20年間の本会のエコシティーづくりのためにご支援くださったすべての皆様に深く御礼申し上げます。今後ともますますのご支援をお願いします。

本特集は、秋本 育生、坂部 安希、石田 浩基、風岡 宗人が担当しました。

行事案内

京 環境市民 東 環境市民東海 滋 環境市民滋賀

京 1 Day ボランティアデー

毎月エコな話題をおしゃべりしながら会報誌みどりのニュースレター発送作業をしています。どなたでも参加できます。ぜひお気軽にご参加ください。

- *とき：5月31日(木) 午後2:00から午後7:00頃まで
- *ところ：環境市民京都事務所

京 ぬいカフェ♪ リフォーム・リメイクで暮らしを素敵に

●第5回「針の錆びない針山づくり」

裁縫箱の中で長年放ったらかしの針…久々に出してみると、錆びてて使えない…なんてことはありませんか？錆びない針山づくりのコツ、お教えします。

- *とき：5月17日(木) 午後1:00から4:00
 - *ところ：環境市民京都事務所
 - *参加費：500円
 - *持ち物：針山に使いたい布(ウールか絹)
- ※針山の材料はご用意できます。できればカットしたりブラッシングで抜けた髪の毛を集めておいて、持って来てください。

●第6回「番外編ーぬいカフェ@工房」

いつもの事務所から外へ飛び出し、新緑鮮やかな古民家にて、さまざまな手仕事をご紹介。縫い物だけでなく、草木染・織りをはじめ、自然農の畑や自然の恵みをいただくカフェを臨時OPENします！

- *とき：5月26日(土) 午後1:00から4:00
- *ところ：井手町 ぬい工房(詳細は申込み後連絡)
- *参加費：500円

*共通の持ち物：裁縫道具がない方には一部お貸しできます・作りたいものや直したいものがある人は、その材料と現物・みんなで楽しみたいお菓子やお茶

*申込み先：お名前、電話、FAX、メールアドレスを京都事務局、またはnuicafe@kankyoshimin.orgまでご連絡ください。

*申込み締切：開催日の二日前

新入会/寄付 (3月1日から3月31日まで)

〈新入会〉池田 浩子

〈寄 付〉岩塚 多嘉子/大西 啓子/楠 正吉/小出 良信
小出 ふさ子/座間 啓子/田麦 誠/(特非) チャリテイ・プラットフォーム/牧村 貢/西島 栄治/二松 希/和田 浩明

誰でも参加できます! 祝!環境市民20周年



NPO 法人環境市民 第11回通常社員総会

総会では、2011年度事業報告および決算報告、2012年度事業計画および収支予算について議論します。今年は環境市民の20周年記念でもあります。今までの活動を振り返りつつ、これから持続可能な社会をどう地域からつくっていくのか考え、行動するヒントを見つけましょう!

※総会で環境市民の運営等に意思表示をしていただくには、「社員」資格が必要です。(社員登録の方法は、本誌裏面をご参照ください。)

*とき：6月17日(日) 午後1:00から受付

●第1部(午後1:30から2:45)

第11回 NPO 法人環境市民 通常社員総会

●第2部(午後3:00から4:30)

20周年記念セミナー:

「環境市民&リオサミット20周年

原発のない社会へパラダイムシフトしよう」

●第3部(午後4:30から6:00) 20周年記念交流会

(第3部の参加費は一人500円。当日お支払いください)

*ところ：京エコロジーセンター1Fシアター(京都市伏見区) *アクセス：京阪電車「藤森駅」下車西へ徒歩5分、地下鉄・近鉄「竹田駅」下車東へ徒歩13分

*定員：100人 *申込み：お名前、ご住所、電話番号、あればEメール、第1から第3部の出欠を、電話、FAX、Eメールにて、京都事務局にお申し込みください。

環境市民 入門講座 野の塾シリーズ

環境問題や持続可能なまちづくりに関する話題を分かりやすく紹介する講座です。

(里山・町家編) 里山と京町家で、生き物の 魅力とエネルギーの未来を感じよう

松原斎樹教授は、人間の心と身体にとって望ましい住環境デザインのあり方について、主に温熱環境、視覚環境、聴覚環境などの側面から研究されています。古人の知恵や京町家のしつらえが、実際に効果があることを京町家で感じてみましょう。

【夏】夏の京町家で、いにしへの知恵を科学の目で見る ～電力に頼らない“涼”のとり方と、その効果～

*とき：6月9日(土) 午後1:00から4:00

*ところ：京町家再生研究会さん釜座町家(京都市中京区三条釜座西入る)

*講師：京都府立大学 松原 斎樹教授

*定員：20人 *参加費：500円

環境学習プログラム エコスクール³

子ども、学校、地域が一緒になって環境活動を行う環境学習プログラム「エコスクール」。
環境市民は、2011年度から兵庫県加西市立西在田小学校のエコスクール活動をコーディネートしています。

祝！ グリーンフラッグ取得 西在田小学校

これまで紹介してきた兵庫県加西市立西在田小学校は、2012年3月にグリーンフラッグを取得しました。

グリーンフラッグは、問題を見つけるところから活動を半年以上続けるところまで7つの活動ステップをクリアし、その取り組み内容や成果が審査によって認められると授与される認証旗のことです。エコスクールに取り組む学校は、このグリーンフラッグ取得をめざして活動を行っていますが、国内で小学校が認証取得したのは西在田小学校が初めてです。

エコスクール活動は国際環境基準のEMAS と ISO14001に基づいています。P（計画）、D（実行）、C（評価）、A（改善）のサイクルが繰り返され、自分たちが定めた目標に近づき高めてゆくことが成果となりますが、子どもたちはそれ以上に多くの体験を得ています。

西在田小学校の活動の大きな特徴である「縦割り班」では、年齢に関係なく全員が意見をだせるよう絵を描いて表現する等の工夫がされましたが、このプロセスで高学年の子どもたちは、みんなから意見を出してもらうことや意見をまとめてゆくこと、そして、どうすれば自分たちのやりたいことを形にできるのかを経験し、活動を実現させたことで大きな自信を持つことができました。中学年の子どもたちは、年上の子どもたちの姿をお手本に次は自分たちが同じ立場になることを自覚しはじめました。低学年の子どもたちも感じたことや思ったことを堂々とと言えるようになりました。

11月の活動報告会には、全校児童数を上回る保護者や地域の人たち120人以上が集まり、体育館には取り組みへの思いと活動報告をする子どもたちの自信に満ちた元気な声が響き渡りました。保護者のみなさんからも一緒に活動をしてゆきたいという応援メッセージがあり、自分たちの活動を認め、めざす目標と一緒に実現しようとしてくれる地域のみなさんからの惜しみない協力も、子どもたちへの大きな応援となりました。

その後、2月にはグリーンフラッグの審査員が学校を訪問し、子どもたちに活動の目標や取り組み状況を聞きました。子どもたちはドキドキしながらも質問に

ハキハキと答えましたが、予想外の回答が飛び出す等、先生方のほうが緊張していたそうです。

待ちに待ったグリーンフラッグが到着したのは3月の卒業式の3日前でした。それまで、何人もの子どもたちや保護者から結果を気にかける声が学校に寄せられたそうで、さっそく「学校だより」で保護者のみなさんにもお知らせしました。さらに、4月にはお披露目の意味も込めてグリーンフラッグ授与式が行われ多方面から注目されました。



エコスクールの活動はグリーンフラッグを取得すれば終了するというわけではありません。グリーンフラッグはあくまで通過点です。今後は、1年目で育てた取り組みの芽を、2年目、3年目と年を経ながら大きく育ててゆくこととなります。西在田小学校では1年目に11の活動をスタートさせました。2年目には、全ての活動を同時にすすめるのではなく、みんながめざす「かがやけ若井川」に近づけるようにエコスクール委員会のメンバーを中心にひとつずつ深め、全校児童で取り組んでゆく予定です。

自分たちの生まれ育った地域に関心を持ち、大人の協力を得ながら地域の問題を自分たちで解決してゆく経験をした子どもたちの成長は、地域の何よりの宝になるのではないかと考えます。エコスクール活動は、持続可能な地域づくりに大切な「人」を育む活動です。みなさんの地域の学校でも取り組むことは可能ですので、関心をもたれた方はぜひご相談下さい。

(文／本会理事 下村 委津子)

地球のなかま

タコといえば、明石の海にいるタコを思い浮かべます。でも、最近、明石産と書かれたタコを見ません。タコはどこから来るのでしょうか。

第49回 タコははるばるやってくる

文／ニューズレター編集部 千葉 有紀子

●タコは今や高嶺の花

今、ものすごい勢いでタコの値段が上がっています。魚売り場で他の魚と比べてもだんとつに高い値段です。こんな値段が続けば、関西名物のたこやきや明石やきなども値段を上げざるを得ないかもしれません。消費者物価指数統計によると、2月のタコの小売価格が前年に比べて27%も上昇しています。

日本におけるタコの漁獲量は1950年から1970年代にかけて急増し、その後減少し続けています。その分、輸入が増えってきました。しかし、輸出国でもタコはだんだん獲れなくなってきました。おまけに、日本以外の国でもヘルシーブームでタコの需要は伸びています。健康食品としての寿司ブーム、日本以外の国ではその需要はレストランなどが多いため、値段は高くてもいいということもあり、値段はこれからも上がるのが予想されています。需要はうなぎ昇りです。

●タコはアフリカからやってくる

日本へのタコの2大輸出国は、西アフリカのモロッコとモリタニアです。モリタニアからの輸入は1990年代をピークに減少し、近年は不漁が続く、減少しています。その後、モロッコからの輸入が増えましたが、それも下がり始めています。いずれ枯渇することは目に見えています。

日本の海産物の自給率は60%前後です。タコの自給率がどれほどなのかのデータは調べられていませんが、その内、福島県産のタコは3割ほどを占めていました。震災

の後、全く出荷されていません。そのことも価格の高騰に拍車をかけているのです。

●マダコの生態

私たちがタコと言って食べているのはマダコという種類です。ヨーロッパや東南アジアに生息する無脊椎動物です。大きな頭と8本の足、敵に見つかるとスミを吐いて逃げます。2010年サッカーワールドカップ・南アフリカ大会の結果を予測した、ドイツの水族館のパウルくんが有名な様に、実は無脊椎動物の中で最も知能が高い動物です。パウルくんは水族館生まれで、小さいときから賢かったそうですが、2年9か月でその命を終えました。マダコは自然の中では1〜2年、飼育下でも3年が寿命といわれています。だから、予測するのに疲れて亡くなったわけではありません。逆に言えば、もうそろそろ寿命がくるのではと、関係者ははらはらしていたのではないのでしょうか。

●タコは子煩悩

カニ、ザリガニ、貝などを食べ、大きなものは1メートルを超え、体重も10キロ前後まで成長することもあります。ほとんどのマダコはそこまでは大きくなりません。

ミズダコはマダコよりも大きな種類です。水族館で見る大きなタコはミズダコです。ミズダコは3〜4週間かけて産卵し、2万〜3万粒の卵を生みます。孵化は半年から7か月、水温が低ければもっとかかることもあり、孵化も最初の孵化から1か月近く差があることがあります。マダコの場合ももっと多く卵を産み産卵から孵化まで約1

か月です。実はその間、母タコは全く餌を食べません。マダコだと1か月前後、ミズダコだと半年以上絶食が続くわけです。母タコは卵に水を吹きかけたり、掃除したり、他の動物に食べられないように保護をします。そのため、孵化と相前後して命を落とします。

飼育下のミズダコが卵を生んだ時の観察によると、餌をすぐ側に持っていくと一応食べることは食べますが、片時も卵から離れないそうです。そうやって卵はほとんどすべて孵化しますが、母タコは亡くなります。そして、その後どれほど人間が手を尽くしても、その孵化した子タコが生体にまでなるのは1匹がやっとということ。孵化までに母タコが亡くなれば、孵化率も悪くなります。そうやって守られた命がまた次の命をつなぐのです。マダコはほぼ一斉に孵化しますが、やはり餌をとらず守り続けた母タコはその孵化を見届けた後、亡くなります。パウルくんのようにマダコも飼育下での産卵・飼育も試みられています。やはり孵化した卵のうち生体にまでるのはごく一部です。

そうやって大きくなった数少ないタコを次の世代のことも考えず捕っていけば減っていくのは当たり前です。モロッコとモリタニアでも禁漁期間や制限を設けていますが、これからもっとちゃんと考えていかなければいけないのです。

参考文献

魚種別に見る水産資源の現状と問題／タコ
WFFジャパンホームページ
『アニマ』1986年1月号、平凡社

交野市環境基本計画が完成しました!

環境市民がコーディネートする交野市環境基本計画策定事業の進捗を紹介します。

一丸となって計画づくり

昨秋の中間発表会后、いちだんと団結したように感じられる「かたの・環境を考える委員会」です。自ら考えてきたプロジェクトを自分たちの手で実現するんだ!という想いと自信に、一人ひとりが満ちあふれているかのようです。

さらに、新しいメンバーも増えました。発表会に来てくれた市民が7人ほど仲間に加わり、委員会に新鮮な風を吹き込んでくれます。

年度末に向けては、発表会での意見交換会とパブリックコメントを受けて、プロジェクト等の計画書の内容を修正し、計画策定の仕上げにかかりました。

計画策定後をにらんだ準備

そして、並行してすすめるのは、計画をどのように実現していくのかを考えていくことです。委員に三つの作業チームに分かれてもらいました。「先行プロジェクトチーム」では、環境基本計画をともに担う市民を増やすための取り組みを、「組織づくりチーム」では環境基本計画を推進する組織をどのようにつくるか、「計画書作成・PRチーム」では、計画書の仕上げと完成後のPR方法について検討していきました。

先行事例の視察 ECO-net生駒へ

とはいえ、計画を進める方法なんて、なかなかイメージがわかりません。そこで、先輩の生駒市へ視察に行くことにしました。生駒市では、交野市より2年早く環境基本計画を策定し、計画の推進組織「ECO-net生駒」を立ち上げて活発に活動をされています。

生駒に到着してみると、ECO-net生駒の運営委員と環境政策課の皆さんが大勢で歓待してくれました。事前の質問にそって、ECO-net生駒立ち上げまでの経緯と、現在の計画の進行状況などについて詳しく聞かせていただきました。

「市民と行政の厚い信頼関係ができて」「そのようにすれば推進組織ができるのか」「2年経てばあんなことができるようになるのか」など、この視察ではそれぞれ学びが大きかったようです。

計画がついに完成! 提出へ

気持ちがさらに盛り上がったところで、一気に計画の仕上げにかかり、各作業チームでの検討も進みました。これまで会議の進行は主に環境市民のコーディネーターが行ってきたのですが、この作業チームでは市職員を中心に、委員に協力して議論を進めてもらいました。主体的に動いたことで、またメンバーにどんどん力がついて

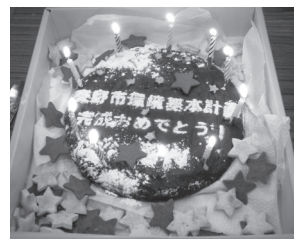
いくのを感じました。

そうしてついに交野市環境基本計画(案)が完成。最後の委員会では、みんなで市長に計画案を手渡し、市としてこれからしっかり計画を進めていくという約束をいただきました。

1年半のふりかえり&わかちあい

その後、みんなで軽くお祝いをしました。これまでの努力をねぎらいあい、今後の抱負についてそれぞれ一言。

ここに至るまでには、議論がいつこうに盛り上がらないことや、上を下への大激論もあって、委員会運営には苦労が絶えませんでした。その疲れがすべて吹っ飛ばぐらい、委員会はやる気と信頼にあふれたいい雰囲気になっていました。もう安心して、委員と市にお任せできる!と感無量です。



委員会最終日の交流会のケーキ

これからがスタートです

とはいえ、計画の完成はあくまで新たなスタート地点が設定されたということであり、本番はこれからです。できあがった計画がちゃんと実行されるかどうかは、今後の皆さんの動きにかかっています。「かたの・環境を考える委員会」はいったん解散となりますが、これからは有志で、環境基本計画推進組織の立ち上げに向けて、新しい議論が始まります。

10年後、みんなで考えてきた「かたの」のビジョンは実現できるでしょうか。きっと、この市民と、市職員と、市長なら、大丈夫! 春からの新しい動きに大いに期待しています。

(文/交野市環境基本計画策定事業
コーディネーター 南村 多津恵)



市長(前列右から6人目)を囲んで記念撮影

※交野市の環境基本計画づくりは、ブログでも報告しています。
「交野 わくわく環境基本計画」

http://www.kankyoshimin.org/modules/blog/index.php?cat_id=3



プロジェクト 告知版

♣ 環境市民が取り組むプロジェクトからのメッセージをお伝えします。ピピッときたら迷わずご連絡を！

『 自然住宅研究会 』

1997年に活動をはじめた自然住宅研究会は、シックハウスの危険や住宅の建て直しによって生じるごみ問題などを勉強してきました。また、自らの住まいを自らの手でつくる「セルフビルド」の普及を目的に市民学校を開催、それをまとめて作成した冊子「住まいのエコリフォーム」は、実践的な提案として反響を呼びました。その後、一旦活動を休止していましたが、今年2月から再開しました。環境市民のめざす「持続可能で豊かな社会」の実現をめざし、住まい（ハード）と暮らし（ソフト）の両面から取り組んでいきます。手始めに、「いごちのよい空間」について広く意見を集め、そこから共通点を抽出して、研究会独自の住まい方・暮らし方の提案につなげていく活動を始めたいと考えています。具体化はこれから。いっしょに活動をつくっていきませんか？

『 Slow "mobility" life project 』 スロー「モビリティ」ライフ・プロジェクト

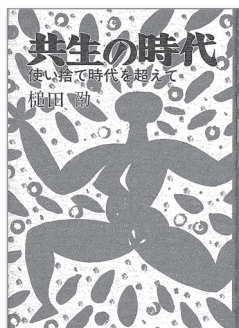
公共交通や自転車グループは数あれど、移動手段の枠を超えた交流はあまりないし、「移動」という視点でまちやライフスタイルのあり方を変革していく活動もあまりないのが実情です。そこで立ち上がったのがこのプロジェクト（代表：大國 正明さん）。環境市民の活動グループ「ちゃり民」のメンバーも加わって活動の具体化をすすめています。自動車に過度に依存しなくても徒歩・自転車・公共交通で日常生活を送ることができる「コンパクトシティ」の実現や、スローライフの視点での価値の再発見をめざしています。6月から始まる「いまからワタシも！サイクリスト入門連続講座」はこのプロジェクトの初めての活動となります。ぜひご参加ください。

SKIPの！ エコファイト劇場

vol.63

(((インフォ@エコ

♣ 環境に関するオススメの本、映画、音楽などを紹介します。



『共生の時代』 使い捨て時代を超えて

樋田 勁 著、1981年、樹心社 (1,800円+税)

物が溢れ、次々と新しいものが生み出される今の世の中。外見上では、私たちの生活を便利で豊かなものにしてきています。ただそれは、恒久的に続くものではなくて、一時だけの幻の豊かさと言えるのではないのでしょうか。本書において筆者は、大量生産・大量消費による、いわゆる「物」の使い捨ては、やがて資源の枯渇へと導き、自然環境の破壊を進めていき、また「使い捨てる」という行為そのものが、人間にとってみると「役に立つ」「役に立たない」で見極められ、「役に立たないもの」は切り捨てられる、いわゆる「人」の使い捨てにもつながっていくのではないかと述べています。そんな「使い捨てる」ことに関する概念に関して共感できる部分は多いのではないのでしょうか。

本書は、筆者がそんな思いで立ち上げた「使い捨て時代を考える会」における数多くの実践を紹介しています。さらにこれからの未来を生き抜くためには「共生」が必要だとし、そのためのさまざまな思索について書かれています。そんな本書に触れることで、今ある社会・生活を見つめ直すきっかけにしてみませんか。

(文／ニュースレター編集部 角出 貴彦)

●みどりの特派員募集中！● みなさんの近況をお知らせください

(MAIL) newsletter@kankyoshimin.org (FAX) 075-211-3531

(郵 送) 〒604-0934 京都市中京区麩屋町通二条下る225 第二心や町ビル405号室
NPO法人環境市民 みどりのニュースレター編集部 宛



環境共育チームSKIPの環境プログラム「エコファイトショー」をモチーフとしています。

イラスト：かわみん



環境市民

かんきょうしみんぶんのいち

★環境市民の会員を紹介します



no.84 西村 仁志さん

環境首都コンテスト全10回すべてに参加した新都市の職員を勤める。

思い立ったら即行動。仲間がいていっしょにできるんです。支えてくれるスタッフがいるからできるんです。

思い立ったら行動

「4月16日のセミナー、他の職員と一緒にいきますので」「え？新都市から？」

昨年の4月16日。環境市民では、

3・11の福島原発事故を受けて、再生可能エネルギーに関するセミナーを京都で行なった。新都市の職員を勤める西村さんはその時も職員仲間をさそってセミナーにやつてきた。「これは」と思ったらどんどんまわりを巻き込みながら動いていく。まさこみ力がすごいですね」といったら「口先だけですから」と謙遜する。「支えてくれるスタッフがいないとできません。仕事は一人ではできませんからね。一緒に働く仲間へ感謝を常に忘れないから多くの人が一緒に行動したくなるのだろう。

小水力発電モデル地域づくりにチャレンジ

環境問題に関心を持ったのは高校の頃。きっかけは食料問題だった。「世界に多くの人を養えるだけの食料があるんだろうか」と心配になり大学では農業を学んだ。

大学卒業後、昭和60年に入庁。なぜかずっと環境系の部署を担当し今年で28年目になった。平成4〜8年度にはごみ問題も担当した。「ちょうど水俣市が分別を導入した時期と同じで、同じように住民が公民館に

ごみを持って行って分別する方式にしました。指定ごみ袋も軌道にのせたんですよ。水俣市は第10回環境首都コンテストで環境首都の称号を得ている。その水俣市と同じ時期、同じ方法だったのだ。

「今は、再生可能エネルギーをいかに地域で創出していくのかを模索しています。新都市内で小水力発電をできればと思います、今年に調査をしモデル地域づくりをする予定です」と西村さん。環境審議会で地域の歴史の専門の先生の「新城は昔いろいろなところに水車があった」という話や、9月25日に行なった市民議会「Voices of しんしろ 2012」(市民のまちづくり提案ワークショップ)でも提案されたことがきっかけになったという。小水力発電は山奥にあることが多く送電方法が課題。「住民をいかに巻き込んでいくかが重要なんです」と西村さん。まさこみ力のある西村さんにはびったりだ。

環境首都コンテスト、ドイツ視察を活用

新都市は、全10回の環境首都コンテストにすべて参加し、常に上位で表彰されてきた。首長や自治体職員を対象に環境首都コンテストで得られた課題を話し合う全国自治体フォーラムにも参加してきた。2011年度は新都市で開催された。「自治体間の交流はあまりないので、

思いを同じくする自治体同士が交流できるのはとてもいい。他の首長の意見を新城ナイズして取り入れられないかなと思っかけていた。去年は職員が100人以上参加できとても刺激になりましたよ。」

西村さんとは、ドイツの環境のまちづくり視察を一緒にしたことがある。「環境市民のネットワークをいかした訪問先、コーディネーターがとても良かった。専門的な用語や内容を質問できたことも大きかった。百聞は一見にしかず。ものを見る目も肥えましたよ」。ドイツでは断熱をしっかりとし地域熱供給さえ不要な新しい住宅団地なども視察した。西村さんは新庁舎の計画にも携わっておりドイツで学んだことをたくさん活かしたという。また、多治見市のヒートアイランドを防ぐタイル、飯田市のLED防犯灯など、環境首都コンテストのつながりで得た情報も盛り込んだ。

チャレンジは続く

新都市では、世界中で新しい城(New Castle)を意味する地名を持つ自治体と交流している。「エチオピアとのお付き合いもあるのです、国際交流協会でフェアトレードをしよう」と提案しているところ。昨年夏に行なったキャンドルナイトでは6万円分のフェアトレードチョコレートなどを市民とともに販売したという。「行政で商品をストックするわけにはいかないのです、なんとか市民が身近なところでフェアトレード商品が買えるようになったらなあと思っっていると」。西村さんの夢は広が

編集後記

毎月の編集会議は平日の夜7時から始めることが多いのですが、今月度は日曜の午後に行いました。平日は仕事が遅くまであってどうしても来られなかったメンバーや、「前から興味があって参加したかったけれど平日の夜は都合が付きにくくて」という新メンバーも加わり、普段にも増して活発な意見交換の場に。成果を乞うご期待!?

(文/ニュースレター編集部 坂部 安希)

編集部

(五十音順)

有川 真理子
石田 浩基
風岡 宗人
衣川 正和
久保 友美
坂部 安希
角出 貴彦
高橋 めぐみ
草美 草美
高 椋
鷹野 圭
武田 麻里
千葉 有紀子
村田 諒平
和 氣未奈
デザイン 智子
下 智子

る。新都市からまた新たな取り組みが広がりそうな予感がした。
(文/ニュースレター編集部 有川 真理子)



社員資格を取得して、総会へ行こう！

【重要】特定非営利活動法人 環境市民の「社員資格取得申告」についてのお願い

NPO法人環境市民の定款では、会員のうち社員総会において議決権を有するものを「社員」と呼びます。環境市民会員はどなたでも登録いただくことができますが、社員になるためには「社員資格取得申告書」の提出が必要です。希望される方は、下記フォーマットの必要事項を記入して、郵送、FAX、e-mailのいずれかで京都市事務局まで送付してください。あらたに社員資格を申請される場合、社員の期限は、申告書提出日から2013年3月31日となります。

今年も、6月17日(日)に社員総会を開催しますので、ぜひ社員資格を取得の上、ご参加ください。

なお、2011年度社員だった方で2012年3月31日までに継続の手続きをとっていない方は、新たに資格取得が必要です。

- NPO法人環境市民定款社員に関する規定は第11～15条です。
ウェブサイトトップページ>環境市民とは>組織概要>定款

NPO 法人環境市民 社員資格取得申告書

NPO 法人 環境市民 代表理事 枚本 育生様

NPO 法人環境市民の社員資格取得を申告します。 2012年 月 日

■住所：〒

■名前：

■電話：

■FAX：

■e-mail：()

📻 ラジオ番組 「環境市民のエコまちライフ」 京都三条ラジオカフェ (79.7MHz)

身近な話題から旬の話題まで環境の視点から情報発信 ● 放送時間：毎週月曜午後1:00から1:15 (再放送は火曜朝7:00から) インターネットでの試聴・ダウンロードはこちら→ URL: <http://kankyoshiminradio.seesaa.net/>

環境市民に入会しよう！

環境市民は、多くのボランティアと会員の皆さんの参加によって支えられています。「持続可能で豊かな社会づくり」のために、ぜひ会員になって環境市民の活動を応援してください！

会員特典

- 月刊会報誌「みどりのニュースレター」をお届けいたします。
- 行事などの参加費を割引させていただきます。
- 環境に関する様々な情報を得たり、また質問や相談ができます。

会費

種別	年会費	入会金
個人会員	4,000円	1,000円
ペア会員	6,000円	2,000円
シニア・学生会員	3,000円	—
ファミリー会員	8,000円	2,000円
助成会員	10,000円	—
特別助成会員	50,000円	—
終身会員	一括 80,000円	—
営利法人会員*	1口 50,000円	50,000円
非営利法人会員*	1口 10,000円	2,000円

※年会費は一口以上

会費の振込み方法

- 1) 郵便振替振込用紙に、住所・氏名・電話番号・会員の種類・送金内容事項をご記入の上、「年会費+入会金」をご入金ください。(※シニア・学生・助成・特別助成会員は入会金不要)
- 2) ご入金を確認後、最新のニュースレター、入会記念としてポストカードをお届けします。

寄付をする

住所・氏名・電話番号・寄付金額をご明記の上、下記の振込先へお振り込みください。

会費・寄付のお振込み先

【郵便振替】 口座番号：01020-7-76578
加入者名：環境市民

(発行) 特定非営利活動法人 環境市民 (代表) 枚本 育生 (発行人) 堀 孝弘

TEL : 075-211-3521 IP 電話 : 050-3581-7492 FAX : 075-211-3531

E-mail : life@kankyoshimin.org URL : <http://www.kankyoshimin.org>

〒604-0934 京都市中京区麩屋町通二条下る 第二ふや町ビル 405

(月から金午前 10:00 から午後 6:00)

●環境市民 東海事務所

TEL&FAX : 052-521-0095

E-mail : tokai@kankyoshimin.org URL : <http://www.kankyoshimin.org/tokai/>

〒451-0062 名古屋市西区花の木 1-12-12 AOIビル 4階

●環境市民 滋賀事務所

TEL : 077-522-5837 E-mail : cefshiga@kankyoshimin.org

〒520-0046 大津市長等 2丁目 9-12 竺 文彦気付



この印刷物は風力発電による自然エネルギーを使用して植物油インキで印刷しました。印刷：(有) 紀書房

本誌の無断複写・複製・転載を禁じます。
「環境市民」登録商標 第4809505号



環境市民
Citizens Environmental Foundation

